立木観音に 齢400年イチョ

流山の彫刻家・畠山さん、8年かけ制作

円東寺の増田俊康住職(51) なイチョウを切るのは忍び 刻家の畠山誠之さん(77)。 彫刻教室を開いていた市内 任住の元国語教師で仏像彫 要請された。「こんな立派 制作者は円東寺で仏像の 根元のため動かせない。30日に足場が外され、全体像が姿を現した。 に生まれ変わった。枝や伸びた根を切り落とし生の幹を彫ったもので像の土台は にあるイチョウの巨木が根元を残したまま、高さ約5分の

が始まるため、10年以上前 年、高さは約30以の巨木だ イチョウは樹齢約400 によると、境内にあった大 に県から枝と根を切るよう 区画整理事業で道路建設

ら彫り始めた。作業はすべ て畠山さんが無償で引き受 いたという。 慈悲と救済の仏である「土 面観音像」を13年12月か 増田住職の承諾を得て、

ない」と悩んでいたとこ

は車で1時間弱。子どもの 出身。東日本大震災直後に 像にしては」と提案したと は宮城県気仙沼市波路上地 出の場所ががれきと化して 区に被災の様子を見に行っ ころ海水浴に出かけた思い た。出身の一関市千厩町と 畠山さんは岩手県一関市 かく彫り込んだ。

を持つきれいな像になっ

けた。枝や葉は切り取り かな輪郭を作った。ノミで 幹を高さ約5 が部分だけ残 粗削りをし、部位ごとに細 して、チェーンソーで大ま

に人を救済するための水瓶 像の表面を彫り直し、左手 になってからで、黒ずんだ で、作業が途中で約4年間 整理による墓地の移転工事 分まで仕上がったが、区画 ストップ。再開は今年3月 約3年後にはかなりの部

50 • 1313) ° ラウドファンディングなど する畠山さんの友人がす。 の木材は一関市で建設業を 法要を計画している。御堂 業が行われ、完成は12月ご 面の柿渋塗りなど仕上げ作 月末。その後も観音像は表 合わせは円東寺 (04・71 の寄付で賄うという。 1750万円は集まったク て提供する。残る建設費約 ろの予定。来年3月に落慶 で。御堂が完成するのは10

外で望めるのは6月10日ま 堂の建設が始まるため、 6月中旬には像を覆う御

ろ、畠山さんが「立木観音



●元は高さ約30以の巨木のイチョウだった。枝などを切る際、2013年11月に法要を行った=円東寺提供 ❷イチョウの幹から彫り出した十一面観音像の前に立つ制作者の畠山誠之さん(左)と増田俊康住職=いずれも流山市

れば」、増田さんは「近く になった人たちの供養にな に小中学校や保育園があ 畠山さんは「震災で犠牲

「立木十一面観音像」

2011年3月の東日本大震災の犠牲者を供養しようと、流山市の円東寺境内

り、子どもたちを見守る像 になってほしい」と話して